

令和7年度第1回福島県立石川高等学校学校運営協議会

■日 時 令和7年6月24日（火） 15:00～16:30

■場 所 石川高等学校 会議室

■参加者 委員

根本 美智夫	福島県立石川高等学校同窓会・会長
齋藤 一彦	石川町商工会・会長
宗像 研也	福島県立石川高等学校父母と教師の会・会長
石沢 泰蔵	石川町立石川中学校・校長
板橋 敬史	石川町立石川小学校・校長
高原 茂	石川町企画商工課・課長
瀬谷 利幸	石川町教育委員会・教育課長
佐川 正美	石川町教育委員会・生涯学習課長兼文教福祉複合施設長
岡部 史則	浅川町立浅川中学校・校長
塩澤 春美	玉川村教育委員会・教育課長
吉田 隆	平田村教育委員会・教育課長
小川 和英	福島県立石川高等学校・校長

■参加者 事務局

教頭	事務長	教務主任	生徒指導主事
進路指導主事	地域連携担当教員	県立石川高校魅力化支援員	

1 開会のことば 鷲森教頭

2 校長あいさつ 小川校長

本校は「志高く大いに学び、社会に貢献する人材の育成」を教育目標に掲げ、「社会につながる学び」と「きめ細やかな支援」を教育の特色としている。4月よりこれまで大きな事故等もなく教育活動を進めてきたが、今年度よりこの会は学校評議員会も兼ねており、是非、様々な角度から本校の教育活動の改善に向けたご意見をいただきたい。

次に、本校のこれからを考える上で、地域とともにある本校の良いところを残しつつ、本校の姿をどのようにデザインしていけばよいのか模索しているところ。特に今年度は、昨年度の学校運営協議会から「いしかわ WORK&LIFE 教育」のリニューアルから始めてはどうかというご提案をいただいている。今協議会の分科会のメインテーマとさせていただいているので、忌憚のないご意見をお待ちしている。

3 委員任命および委員、事務局員紹介

委員任命（任命状を机上配付）

委員、事務局員の紹介（名簿配付）

4 役員選出

立候補、推薦等なかったため、事務局より、会長に本校同窓会会長 根本 美智夫 様、副会長に石川町商工会会長 齋藤 一彦 様を提案。異議なく承認された。

会長あいさつ 根本会長

只今、運営協議会会長に選出いただきました、県立石川高等学校同窓会会長の根本 美智夫と申します。県立石川高校がコミュニティスクールになって2年目となります。運営協議会の会長として、皆様のお力添えをいただきながら地域と歩む県立石川高校をサポートしてまいりたいと考えております。

定足数確認 事務局

出席者12名、欠席者0名であり、定足数を満たしていることから本協議会は成立していることを報告。

5 報告・協議 議長：根本会長

報告1 令和7年度学校経営・運営ビジョンについて

小川校長より要項P9に基づき説明。

- ・本校は、社会とつながる学びを通してキャリア形成を促し、将来の夢に向かい努力し続ける生徒を育てることを願い、「志高く真摯に学び続け、社会に貢献できる人材の育成」を教育目標に掲げている。
- ・この目標達成のため、「地域連携による社会とつながる学び」と「きめ細やかな指導の充実」を教育方針とし、この方針に沿って4つの重点目標と具体的な施策を立てている。

報告2 各部の努力目標について

(1) 教務部

上遠野教務主任より資料No.1に基づき説明。

- ・学校経営・運営ビジョンの重点目標1「主体的に学びに向かう力と協働による課題解決能力の育成」を受けて、5つの重点目標を設定。
- ・基礎的知識・技能の定着を図る授業の充実、教育課程や学習指導方法の検討。
- ・「いしかわ WORK&LIFE 教育」については、石川町や商工会と連携して生徒が将来を考えられるよう充実を図る。
- ・PTA・同窓会活動については、1クラス化に伴う教員数減少や学校規模縮小に見合ったあり方を模索する。

(2) 生徒指導部

大内生徒指導副主任より資料No.2に基づき説明。

- ・学校経営・運営ビジョンの重点目標2「他者を尊重し、集団の中で自律して行動できる力の育成」を基に、4つの重点目標を設定。
- ・生徒指導提要の改定に伴い、令和6年度に校則の見直しを行った。髪型や服装などこれまで細かく規定されていた項目を削除し、生徒が自らの判断で進路実現や学校生活を考え、時と場に応じた適切な行動がとれるよう改定した。改定当初は混乱もあったが、現在は教員との話し合いを通じて生徒が理解し改善している様子が見られ、特別な指導に該当する問題行動は発生していない。

(3) 進路指導部

渡邊進路指導主事より資料No.3に基づき説明。

- ・進学2割、就職8割という最近の傾向を踏まえた重点目標を設定。
- ・ベネッセの基礎力診断テストを年3回実施しているほか、年2回開催される石川町の企業説明会に全員参加、講演会や進路講話等を実施。
- ・多様な進路希望に対応するため、教科指導、面接指導、小論文指導など個に応じた指導を行っている。

報告3 昨年度の課題について

鷲森教頭より要項P1に基づき説明。

- ・昨年度は、①地域連携の深化、②小規模校であることの魅力化構築、③地域からの学校支援の在り方、④学校経営のスリム化 が課題としてあげられた。
- ・中でも①「いしかわWORK&LIFE 教育」のリニューアルを今年度の運営協議会のメインテーマに取り上げるとよいのではないかという意見が出された。

議題1 学校運営協議会組織と役割について

鷲森教頭より要項P3～8に基づき、(1)規約・規則、(2)組織、(3)コンセプト、(4)成果指標、(5)中期計画、(6)年間計画について説明。

<質疑応答>

(石沢委員)

- ・生徒指導部から説明のあった校則見直しに当たり、手順を踏んで行ったのか。
- ・石川中では、校則検討委員会を設け、年間で手順を決め、見直されたことを生徒会が周知するという手順を踏んで校則見直しを行った。

(大内教諭)

- ・提要改定に伴い、髪型や服装に関する細かい規定の見直しの意見が教員側から出た。
- ・生徒会役員やルーム長を通じて生徒に投げかけ、ふさわしい形を自分たちで考えさせた。生徒総会時にアンケートを取り、生徒会で意見をピックアップするなど手順を踏み、教員と生徒が納得する形でルールを決定している。

その他質問はなく、本年度は事務局案のとおり進めることで承認された。

議題2 「いしかわWORK&LIFE 教育」の課題と改善策について

(1) 分科会

- ・来年度リニューアルを検討している「地域創造探究」の方向性について、八代教諭より別添資料に基づき説明。
- ・「キャリアチャレンジ」について、希望制から悉皆制へ、体験により未来を広げる、石川町から石川郡全体へ、就業体験企業数を3社から4社へ、三菱未来財団からの財源の今後 といった改善の視点について校長から説明。
- ・その後、学校経営部会、地域連携部会、生徒活動部会の3部会に分かれ、「いしかわ WORK&LIFE

教育」の課題と改善策について協議した。

(2) 全体報告

ア 学校経営部会 部会長代理：鷲森教頭

- ・町からの人口流出を防ぐにはよい取組。
- ・企業側の受入体制が必要であり、企業側も長期の受入は厳しいのでは。石川町内にとどまらず、企業側から学校に来てもらってアピールしてもらう方法もあるのでは。

イ 地域連携部会 部会長：高原委員

- ・活動範囲を石川町内から石川郡内へ広げていけないか。石川町外から通学する生徒も自分の住んでいる地域のことを知りたいのでは。
- ・探究について、1年で6日間の活動で、より多くの体験ができてよいのでは。
- ・2，3年生のフィールドワークの実施時期を1年生の後期からに前倒しし、3年生の終了時期を早めては。
- ・1日受け入れできない事業所もあり、どれだけ応じてもらえるか心配。

ウ 生徒活動部会 部会長：石沢委員

- ・生徒向けアンケートで「特に意見なし」の回答が多い。生徒にとって自分事になっていないのかもしれない。
- ・キャリアステップについては、高校卒業後の出口を考えての具体的な体験なら有益であり継続すべき取り組みである。
- ・地域創造探究については、石川という地域のフィールドと生徒の持つ思いやテーマが取り込みきれないのでは。例えばゲームや漫画といったテーマが探究にそぐわないとされると、生徒が入り込めなくなる。大人の力を借りて可能性や間口を広げ、視点を変えることで、石川でも十分取り込める道筋があるかもしれない。
- ・70時間・6日間という時間・日数の制約の中で、有効な活用方法や時期の問題について検証されるとよい。

各部会からの報告に対する質問等はなく、各部会からの提案をもって令和7年度学校運営協議会からの提案とされた。

6 その他 事務局

(1) 広報について

須賀川・岩瀬地区の夕刊紙マメタイムス、阿武隈時報にも本協議会の活動について情報提供している。

(2) 第2回学校運営評議会・評議員会の開催について

12月9日（火）15時から開催予定。

(3) その他

特になし

7 開会のことば 鷲森教頭